



書評

[評者]

伊東 直哉

愛知県がんセンター感染症
内科部/感染対策室長

感染対策 60のQ&A

坂本 史衣 著

●A5 頁328 2023年11月
定価：3,300円(本体3,000円+税10%)
[ISBN978-4-260-05271-9] 医学書院刊



坂本史衣先生といえば、言わずと知れた「感染管理のプロフェッショナル」です。感染症業界の人ならば、まずその名を知らない人はいないのではないのでしょうか？ 知らなかったらモグリです。「感染管理ならば、感染症内科医もやっているでしょ？ 専門でしょ？」と、思われるかもしれませんが、チッチッチ、それは違うのです。あくまでもわれわれ感染症内科医は、感染症「診療」の専門家であって、「感染管理」の専門家ではないのです（一部に両方に深い見識と経験を持つ稀有な存在もいますが）。坂本先生は、学会活動や多くの著書を通じて、長きにわたって日本の感染管理を牽引されてきました。私自身も、実際に坂本先生の講演や著書で感染管理を学んできた熱心なファンの一人です。そのような師匠的存在の坂本先生の著書の書評を書かせていただくことはとても光栄なことで、とてもとても嬉しいことなのです。

さて、『感染対策60のQ&A』ですが、前著『感染対策40の鉄則』よりもさらに読みやすく進化しており、感染管理の実務担当者の新たなバイブル本の1つになると確信しています。

本書は各テーマが数ページにコンパクトにまとまっており、忙しい業務の合間にもさっと読むことができます。内容は網羅的

に記載されているので、臨床現場で直面する可能性がある頻度の高い疑問に対してはきっと答えを見つけられると思います。Q&Aという体裁ではありますが、本書を最初から最後まで読むと、感染制御と管理についての体系的な知識を得ることができるので、通読をお勧めします。

また、忘れた頃に対策を迫られる、でも重要な麻疹やムンプス、水痘、疥癬などの各論についてもバッチリ記載されており、各施設の院内感染対策マニュアルの作成・改定にも大いに参考になるとと思います。COVID-19やエムボックスに関する最新の情報も含まれており、ベテランの知識のブラッシュアップにもよいと思いました。加えて、参考文献がしっかりと付いているのも非常にありがたいです。

総じて、坂本先生の『感染対策60のQ&A』は、読みやすさと十分な情報を兼ね備えていて、感染管理の実務担当者にとって、明日から使える知識を短期間で身につけるのに最適です。コロナ禍を通じて、多くの医療機関にとっては、感染症の脅威を念頭に置いた新たな医療提供体制を構築する必要性がより強調されるようになりましたが、そのような現代の医療現場において、本書は必読の書と言っても過言ではありません！